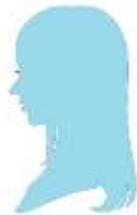
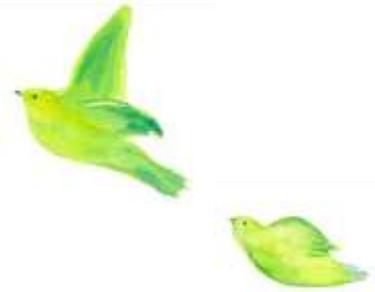


2020年度(令和2年度)

福山市 **高校生** 会議

ナニイロノマチヲ エガコウカ・・・



2020年度(令和2年度)福山市高校生会議

- 1 日時 2021年(令和3年)2月7日(日) 13:30~15:00
2 場所 福山市生涯学習プラザ(まなびの館ローズコム) 大会議室

3 次第

- (1)開会
(2)高校生委員自己紹介
(3)主催者及びご来賓紹介
(4)市長あいさつ
(5)市議会議長あいさつ
(6)教育長あいさつ
(7)記念撮影
(8)会議(パネルディスカッション方式で意見発表と意見交換)

学校・学年・名前	テーマ
福山誠之館高等学校 2年 高橋 実里	鞆の浦の地域活性化と観光資源について
松永高等学校 2年 金高 ひな乃	小さい子とお年寄りが交流できる場所を作る
府中高等学校 2年 渡邊 弥央	発達障がいの支援について (特別支援教育について)
福山誠之館高等学校 2年 吉澤 京香	小学生のアクティブラーニングについて
広島大学附属福山高等学校 2年 林原 伊吹	生きやすい社会, 幸せに生きられる社会とは ~産みたくても産めない理由は病気だけじゃない~

- (9)副市長より講評
(10)記念品贈呈(副市長から高校生委員へ)
(11)高校生委員代表あいさつ
(12)閉会



2020年度（令和2年度）高校生会議 日程表

開催日	場所	項目	内容
7月11日(土) (午後)	イコール ふくやま	認定書交付式	認定書交付式, 市政の学習 マイテーマを決める
8月 5日(水) (午後)	イコール ふくやま	第2回事前学習会	市議会議員との交流会 担当課レクチャー
随時	随時	委員活動	必要に応じ担当課や関係者 の元に赴き「提案書」作成
9月26日(土) (午後)	まなびの館 ロースコム	特別講座	ゲストをお呼びして 福山のものづくりを学ぶ
1月30日(土) (午後)	まなびの館 ロースコム	会議の準備	会議のリハーサル・準備
2月 7日(日) (午後)	まなびの館 ロースコム	高校生会議	意見・提案の発表と 意見交換



●認定書交付式



●福山市政についての学習



●市議会議員との交流会



●担当課レクチャー



●高校生会議 本番前の打ち合わせのひととき・・・



● 高校生会議



市長あいさつ



教育長あいさつ



議長あいさつ



記念撮影



鞆の浦の地域活性化と観光資源

- 育った町鞆の浦が、日本にとどまらず、世界にも発信できるほど魅力的な町になってほしい。
- 観光資源の認知度が若い年齢層で低いが、情報を得た後の態度変容が大きいので、若い年齢層に鞆の浦を知ってもらうため、効果の高い SNS の活用について2つ提案する。
- 1つ目は、鞆の浦の公式アカウントが見当たらないので、支所と協力するなどして、Instagram や Twitter で鞆の浦の公式アカウントを作ることを提案。
- 2つ目は、SNS で” #鞆の浦” とつけて投稿したら割引になるような工夫を各店舗に依頼することを提案。

【他の高校生委員からの意見】

- 私も SNS で情報収集してから遊びに行くので、もっと SNS で地域の魅力が伝われば、今以上に観光客が増えると思う。
- 最近の若い人たちは SNS を利用する人が多いので、認知度も上がり、多くの人に鞆の浦を知ってもらえるのではないかな。
- ハッシュタグをつけて投稿し、ドリンク 10%オフのサービスを受けたことがある。行って楽しい、食べて嬉しい取組なので、ぜひ実現して欲しい。
- 公式アカウントを発信するだけでなく、SNS を利用する人に、どのようにそのアカウントを見つけてもらうかということまで含まれていて、これからの情報発信にとてもいいと思う。

【文化観光振興部長からの意見】

- 東京などの首都圏に住む若い女性の 20 歳から 34 歳、F1 層をターゲットにして情報発信をしている。
- SNS で発信力の高いモデルさんやインスタグラマーを起用して、福山の魅力を発信する動画の発信を youtube などで行っている。
- 公式アカウントでなくても、SNS は#（ハッシュタグ）をつけて投稿すると魅力が拡散される。今後、日本遺産のホームページの中でインスタグラムの準備、公式のものもやっぴこうと準備を進めている。
- SNS への投稿による割引特典などの使用方法や成功事例について、例えば研修会などで事業者の方に紹介するような取り組みも検討する。

【松永高等学校 2年 金高ひな乃】意見・提案

小さい子とお年寄りが交流できる場所を作る

- 公民館で地域の方から習い事など教えてもらったり、公園でラジオ体操をしたのはいい経験だった。
- 人材バンクという取組は、地域の方とコミュニケーションをとることが出来る良いきっかけとなり、お互い助け合いがしやすくなる。こういう取組が増えたら、お年寄りと小学生の交流も増えると思う。
- お年寄りと小学生の交流が増えることにより、お年寄りの健康増進、子どもたちは知恵や知識を得、お父さんやお母さんは安心して働けるようになる。さらに、災害時など協力し合えるので、交流を今以上に増やし、集まれる場所作りを提案する。

【他の高校生委員からの意見】

- 小学生の頃、地域の交流会に参加したことが良い思い出になっている。良い提案と思う。
- 人材バンクという取り組みを始めて知れてよかった。少子高齢化が進む中で、この現状を踏まえ、お年寄りがみんなで子どもを守り、子どもがみんなでお年寄りの笑顔を支えるっていう、お年寄りも、子どもも生き生きと暮らせるような取り組みを推進していくべきだと思う。
- お年寄りは介護施設、子どもは保育所・幼稚園というように、同年代が決まったコミュニティで過ごす時間は増えていると思う。地域での交流を増やすことができ、様々な立場の人が参加して、身近な人からよい影響を受けられるシステムだと思う。

【まちづくり推進部長からの意見】

- 小学生と高齢者の方々だけでなく、その子どもたちの保護者の皆さんまで含めて3世代が集まり、地域全体も繋がっていくのではないかという、意義深い提案をいただいた。
- 人材バンクの他に、放課後子ども教室も行っている。子どもたちにとって、宿題だけでなく、様々なことを教えてもらえ、安心安全な居場所でもあり、高齢者の方々にも生きがいにもなる。
- コロナ禍で開催が難しいものもあるが、文化祭など交流できるイベントや、見守り活動など行われている。地域のきずなやつながりを深める大切な取組であるとともに、災害時の共助の関係づくりにも繋がっている。
- 情報共有しながら、しっかりつながり交流できる場をさらに広げ、地域全体が繋がって、支え合う、安心安全に暮らしていけるまちづくりを目指して取り組んでいく。

【府中高等学校 2年 渡邊弥央】意見・提案

発達障がいの支援について（特別支援教育について）

- 身近に発達障がいを抱えている子がいて親子ともに困っていたのでこのテーマにした。
- 調べてみて、①市内の特別支援学級のクラス数・児童生徒数と先生の数、②人それぞれ得意不得意があるので、障がいを持っていても特別扱いしないこと、③発達障がいの支援が円滑に進んでいない原因のひとつに職員の数足りないこと、が分かった。
- 職員数は簡単に増やせないなので、筑波大学の柘植教授が挙げておられた「教師一人が頑張るのではなく、学校の中でチームを作って、その問題や支援策を共有すること」の実現を提案する。
- どの小中学校にも特別支援教育コーディネーターの先生を置き、例えば家庭との交換日記などを活用するなど、学校と家庭が密に連携して児童に関わっていくことを提案する。

【他の高校生委員からの意見】

- 障がいを持っている友達がいたので、とても共感できる内容。障害について理解してくれる人がもっと増えればいいと思う。提案にあった交換ノートはとてもいいと思う。学校と家庭の連携を広げていくことができ、その子のよさを、一人一人の効果的に引き出すことができるので、ぜひ実現して欲しい。
- 教職員数を増やすことが重要なのに、教員採用試験の倍率が低下していたり非常勤講師が増えているので、経済面でも、学校教育の質を考えた上でも、教職員を増やすことが難しいので、特別支援教育に関わることの魅力も同時に発信していったらいいと思う。

【教育次長からの意見】

- 一人一人自分の力を伸ばす教育をやっていくことを、教育委員会も方針として持って、子ども主体の学びづくりに取り組んでいる。
- 特別支援学級在籍の児童生徒数の増加は、特別支援教育への理解が広まったことと、発達支援センターで、就学前からの支援体制が充実したから。
- 交換ノートの提案のように、学校と家庭との連携は必要だと思っている。今は各学校に特別支援教育コーディネーターを全部に配置し、教職員全体で関われるように校内委員会というのを作っている。
- 親とか学校が子どもたちにこうすべきというだけでなく、子どもたちの思いも聞きながら計画を立てていく。
- 学校と家庭が連携して、生徒の成長に合わせ、違うことが大切であると認め合い、そういうことを目指して取り組んでいく。

【福山誠之館高等学校 2年 吉澤京香】意見・提案

小学生のアクティブラーニングについて

- ・文部科学省は、情報化社会やグローバル化が急速に進む時代の中で、主体的に判断する力を見につけるため、アクティブラーニングを推進している。
- ・福山市では、アクティブラーニングという名前でなく、「子どもの主体の学び」全教室展開をめざし、「小学校学びパイロット校事業」など行い、「子どもがどう学ぶか」という視点から、カリキュラムを編成・実施したり、評価の見直しを行っている。
- ・学びの過程を評価する取組はこれからも推進していくべきだと考えるので、先生からだけでなく、自分や友達から評価する”まんぷくプロジェクト”を提案する。ペアで評価し合いポイントをつけ、子どもたちが学ぶことの楽しさを知り、分かったこと、身についたことがポイントとなる、ワクワクを広げるシステムを今ある学びにプラスして、さらに子どもたちが主体的・対話的で深い学びになるような取り組みを行って欲しい。

【他の高校生委員からの意見】

- ・懇談でテストや作品などを用いるのは、保護者に、最終的な分析だけではなく生徒の学習の過程に目を向けるようにも促すことになるので、現代に合った取り組みだと思う。また、提案された取組は、児童が他人に認められているということを実感しやすく、他者を評価する力もその後役立っていくものだと思う。
- ・まんぷくプロジェクトはとてもいい提案だと思う。評価シートがあることにより学ぶ楽しさを知り、自分へのご褒美になり、ワクワクを広げるシステムはとてもいいことだと思う。
- ・ペアワークだと、1人がしゃべってたらもう1人は全然しゃべらないような状況があるので、まんぷくプロジェクトをすることで、生徒みんなが主体的に取り組めるようになるのではないかなと思う。

【教育次長からの意見】

- ・福山市では、不透明な時代の中で子どもたちがしっかり力をつけるよう、2016年1月に福山10ONEN教育を設定し、今は、一人一人違いを大切にすることを、もっともっとカラフルにという言葉に込めている。
- ・学校では、興味のあることから子どもが取り組む授業づくりをしている。
- ・みんなで意見を出し合って、一人一人が考えて学ぶ授業をやる中で、お互いに多様性を認め合って学校のルール作りを自分たちで決めて考えていくことをしている。
- ・学校では、家庭を大切にしたい評価をしてやっているところ。提案のまんぷくプロジェクトは地域での活動にも着目し、いろんな人と関わりながら成長を自覚できる良い仕組みと思う。学ぶ意欲にもつながり、ワクワクを広げていこうと思う。
- ・自己肯定感やチャレンジ精神をもとめていけるように学びづくりに取り組んでいく。

【広島大学附属福山高等学校 2年 林原伊吹】意見・提案
生きやすい社会，幸せに生きられる社会とは
～産みたくても産めない理由は病気だけじゃない～

- ・10代の妊娠や中絶の現状を生み出している原因の一つとして性教育に着目する。
- ・学習指導要領では，歯止め規定とあって，内容の取扱いを禁止するよう定められているものがあり，中学校では，妊娠の経過は取り扱わないものとされている。
- ・教育現場では性教育の授業時数は少なく開始時期が遅く，内容が不十分，教職員のほとんどは性教育についての経験を十分に持ち合わせていないなどある。
- ・現行の学習指導要領の範囲内で授業可能なもので，教えていくべき項目をまとめた。
- ・産婦人科疾患や性感染症などについて，異変に早く気付けるように意識を高めることを重視すべき。「児童・生徒が妊娠した場合の学校における初期対応の指針」を作成し，先生方が共有して意識を高めて欲しい。
- ・コロナ禍の若年妊娠の報道がたくさんあるのは，日本が性に関する教育に向き合っていない結果。10代の妊娠を良くないことと決めつけずに，一つの生き方として支援・尊重していくことも必要ではないか。

【他の高校生委員からの意見】

- ・妊娠出産について学ぶために，学校で性教育の授業をするのはすごい大切だと思う。
- ・私は最近人気の同級生のインフルエンサーが妊娠したと知ったとき，最初は私も驚いたし，SNSでもあまりいいコメントがなかった。しかし発表を聞いて，若者の妊娠に偏見を持ってはいけないと思った。一つの命をみんなで大切に迎えるために，特に若い世代の人が，知識をふやすことの重要さがわかった。

【教育次長からの意見】

- ・性に関する学習・教育については，自分自身と相手を大切にすることが前提にある。
- ・普段の生活においても，情報を色々入手したり信頼できる人に相談しながら自分で考えて適切な選択と決定と望ましい行動ができる力を見つけることが大切と思う。
- ・思春期の心と体の発達性については一人一人段階や環境が違うので，全体で考えることと個別で考えることとある。
- ・養護教諭中心に，スクールカウンセラーも配置して取り組んでいる。
- ・今年の4月からは若年妊娠や性被害の社会問題を踏まえて，命の安全教育を行う通知が出されている。
- ・生徒が妊娠した場合，生徒の体を一番に考え対応する。一番の責任は親となる生徒とパートナーにあるが，若年者への支援は不可欠。保護者，パートナーも含めてしっかり話し合う必要がある。
- ・2018年（平成30年）文科省は高校へ生徒が妊娠した時の通知を出し，身体的活動を伴う教育活動への支援や，学業を継続するための情報提供もしっかり行うようにとある。
- ・提言をしっかりと受け止め，静観する正しい知識を身につけ，適切な意思決定や行動がとれ，生徒が自分の夢の実現に向かえるよう支援をしていきたい。

●副市長講評



●記念品贈呈



●高校生委員代表あいさつ



§ 高校生会議 高校生委員代表あいさつ §

福山誠之館高等学校2年の 吉澤 京香です。

まずはじめに、高校生会議を無事行うことができたことを大変うれしく思います。

市役所の方々には、私達の意見や提案に的確にアドバイスかつ丁寧にお答えいただきましたことに対し、すごく感謝しています。ありがとうございました。

また、このように意見を主張する場を設けて下さりありがとうございます。私達高校生会議の委員の意見・提案が1つでも多く実現され、今後の福山に良い影響と発展をもたらしてくれることを願っています。

私は、小学5年生の時に初めて子ども議会に参加しました。自分のまち、福山のまちづくりの現状や取組について学び、それをより良くするための提案を考えました。そこで、自分もまちづくりに携わることができる嬉しさと楽しさを知り、将来、福山市のまちづくりをする仕事がしたいという夢を持ちました。その後も中学3年生まで参加し続け、議長も経験しました。高校生議会と高校生会議では、2年間、教育について学びました。そして、自分が提案したことを実際に自分で実践したいと思い、小学校の先生として、福山市の子どもたちによりよい教育をするという明確な夢ができました。

7年間の活動を通じて、私が得たものは大きく2つあります。

1つ目は、行動力です。違う学校の違う学年の人に、自分の意見を言うこと、資料を読み取って疑問に思ったことを質問することなど、自ら行動を起こして様々なことを乗り越えてきました。この行動力は、生徒会活動などの学校生活に持ち帰り、発揮することができました。

2つ目は夢を与えてくれたことです。自分のふるさとの未来を自分の手でつくっていく、こんな素晴らしいまちづくりという仕事に出会いました。私は会議で学んできたことを生かして、福山市の子どもたちの明るい未来をサポートできる小学校の先生になりたいです。最後になりましたが、このコロナ下で会議の開催に携わってくださったみなさま、7年間応援し続けてくれた家族、共に発展をした委員のみんな、全ての方々にありがとうございました。

時が経ち、時代が変わっても、今後の福山市と高校生会議の発展を心から願っています。本日はありがとうございました。

「高校生会議」の運営にあたり、次の皆様に多大な御理解、御協力をいただきました。御協力をいただいた関係者の皆様の全てに感謝申し上げます。ありがとうございました。

- ものづくり企業
株式会社エフピコ

- 事前学習会講師，担当課，関係課
 - 企画財政局企画政策部企画政策課
 - 経済環境局文化振興部観光課
 - 市民局まちづくり推進部人権・生涯学習課
 - 教育委員会学校教育部学びづくり課
 - 保健福祉局福祉部障がい福祉課
 - 保健福祉局保健部健康推進課
 - 保健福祉局ネウボラ推進部ネウボラ推進課
 - 議会事務局庶務課
 - 議会事務局議事調査課



「2020年度（令和2年度）福山市高校生会議報告書」

2021年（令和3年）3月

編集・発行 福山市 市民局 まちづくり推進部

青少年・女性活躍推進課

〒720-0831

広島県 福山市 草戸町 五丁目 12 番 3 号

(084) 928-1046

